

刊夕日五月二十

# 常磐每日新聞

定価 一月五拾銭 郵税五銭  
 廣告料五號十二字第一行金五拾銭  
 日曜祭日の日休刊  
 発行所 常磐毎日新聞社  
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

## 一〇〇〇哩を 驅けて

清交會 登良夫 生

漂渺たる波頭上の薄墨に  
 も似たる大島は、噴火山た  
 る三原を抱き、近時夢を天  
 國に結ぶ地として一躍名聲  
 ?を擧げた。

あんど櫻の名所大島、  
 その噴煙の下幾白幾千の人  
 を焚きたるにや、海や空な  
 る露糊の間に一條の線を描  
 いてたなびいて居る。

石橋……大垣を経て米津  
 を通過す。此の邊り一帯は  
 密柑の産地にして海岸に直  
 せる山々の傾斜を利用して行  
 儀よく小石を並べ段々を作  
 り柑橋の木の林立を見る。

緑葉の間橙色の色づき密  
 柑鈴成りとなり南國的氣分  
 横溢せり。

兒等に戯はむれば十數  
 個の密柑を次ぎ次ぎ懐中よ  
 り取り出す、一同恵比壽顔  
 に舌鼓をうつ。直鶴を過ぎ  
 江の浦海岸に出づれば目を  
 遮ざる一点のものもなく、

巨巖怪石その礎となれば老  
 樹大木これに趣を加ふ。  
 また可憐そのものゝ如き  
 スエートピーは我々の目に  
 なごやかな氣分を興ふ。

巨木の梢に唄ふ鳥の音に  
 數十丈の断崖の下岩打つ波

の響きを守唄ときき、自か  
 ら夢の園に遊ぶを感ず。  
 急回轉せば大洋は雄壯――  
 老杉古杉は幽寂、これより  
 目を移せば幾十となく浮ぶ  
 大敷網の点々にあり、紺碧  
 の彼方名も優しき初島を見  
 る。更らに踵を返せば連々  
 たる山々より峰を出せる天  
 城の雄姿を眺む。

蜿蜒長蛇にも似たる山麓  
 を迫る。登れば幾百尺の巨  
 巖の下怒濤の攻むるを見ん  
 下れば青苔の底澄たる岩清  
 水の流るゝ所に逢ふ。

長路浮かへ下短路又此れ  
 を迫ふ。小春日和り秋史茲  
 伊豆の國は鹿外の別天地た  
 り。途を求めて湯河原に出  
 づ。

神兵隊事件にて新聞に名  
 を連らねし島徳藏氏の別邸  
 がある、廣莊ならねど古雅  
 優致塵俗を脱し柴折戸の表

地球の南  
 北兩極で  
 百貫多あ  
 るものは赤道直下では九  
 十六貫五百多に減る、こ  
 れは地球の引力の關係。

に碧巖莊の額あり。  
 これより登りて弘法大師  
 の創建に依る危険地蔵清瀧  
 の名所等あり。

旅館に入る橋の欄杆は何  
 れも朱塗りにて流水澄明山  
 岳の投げたる様を見ゆ。

何れの公園にも見る態は  
 ざる年三萬圓の手入費を投  
 せらるると言ふ大倉和親所有  
 の一大庭園に入る。  
 小川――川前の勝地を取  
 り入れたるが如く庭園中清  
 水は谷となりその上飛瀑を  
 散らし之れを圍繞して萬樹  
 その姿を凝す。

科人婦。科外  
**院醫坂井**  
 町田町平  
 番九五五話電

四季おり／＼此の眺めを  
 回ゆる廣大なる別莊あり、  
 何れにも噴水築山のありて  
 草木これを慰さめ風清雅致  
 いと深く只壯然たるのみ。

左手に高さ若葉山公園を  
 見上げ、途を東道に返して  
 二十分伊豆山温泉を通りて  
 れより熱海温泉に入る。

【晝】焼肴：鮮魚 きんと  
 ん  
 【晩】わん：八つ頭芋、せ  
 り しひたけ すま  
 し仕立

**耳鼻咽喉科専門**  
 氣管食道科  
 平南町 (電話一七〇番)  
**大和田醫院**


**高久病院**  
 院長 醫學士 高久 忠  
 副院長 新潟醫學士 赤羽 清  
 藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

内科小兒科  
 耳鼻咽喉科  
 外科花柳病科  
 レントゲン科

平町田町 電話五一三番

の物刷印  
 て總は命用御  
 會社 刷印日每警常  
 番〇三六話電

ほしやなぎ  
 いかの鹽から  
 鱈魚の子



**魚問屋**  
 店理代平命生本日本大最優最  
 榮 盛 賀 志  
 (三一二電)目丁四平

喜多流 謡曲 仕舞  
 白土會  
 平町田六九  
 電話一二七番

◇細詳は本會へ御問合せ下さる。

感 じ の 良 い !  
 客 に 親 切 な ……

**阿部薬舗**  
 平・田町(松月堂向)

藥種賣藥、工業藥品  
 衛生材料、各種染料  
 化粧品、其他

咽耳鼻専門  
 入院應需  
 平町田町七〇番地  
**山内醫院**  
 醫學士 山内亨吉  
 電話六九一

喜多流 謡曲 と 仕舞 の  
 お稽古をお勧め致します

# 豊間漁港干上る

## 人夫三百名出働陸堀作業

豊間漁港修築工事は去る九月より港内三千坪の深水を二米に深める本格的工事として工費二萬六千餘圓を投じ港内の兩入口を閉鎖し十時鐵管を敷設動力で排水作業中であつたが昨日四日愈々同作業が完成し港内が干上つたので本日より人夫三百名を出働陸堀り作業を開始したが明年三月頃一切の漁港設備は完成する豫定である

### 職業紹介増加

平職業紹介所に於ける前月の求人数は男六十八名、女十六名計八十四名、求職は男七十五名、女九名計八十四名就職者は男三十六名、女四名計四十名であるが前月に比較すると求人十二名、就職二十五名各増加し前年の同期に比すると求人二十九名、就職十名の増加である

# 非常時國防

## 講演と映畫

### 平青訓が主催

平青年訓練所後援會では来る九日午後五時より聚樂館に於て平警察署を始め青年團、國防研究會、在郷軍人分會等後援の不以非常時局國防講演と映畫大會を開催し左記映畫及び陸軍歩兵中尉山田健三氏の世界一を誇るロシアの戦備に就いてと題する講演ある由

### 縣道側溝

藤原から陳情 磐崎村藤原區長北郷秀之助廣木邦彌の兩氏は本日土木監督所を訪れ同村田場坂地内縣道側溝工事の施工方を陳情した

### 學章唱歌會

既報來 平校の種目 九日 午前十時より平第三小學校講堂に於て開催される第五回郡内小學校兒童唱歌會は出演兒童千五百餘名八十

### 第二校學藝會

平第三小學校では来る十四日午前十時より同校講堂に於て

## 當地方に稀らしい 作法付きの活手前

### 華道師匠横山女史の精進

平町南町平館隣華道師匠横山美聲女史は連日數多い門下の指導に當つて繁忙の傍ら常に斯道の研究に怠りなくその熱心な精進振りには人々の感嘆する處であるが此の程は池の坊家元である京都市三條六角堂に參向して一層同流派の奥儀を極めて更に家元より『作法付き活手前』の教授を受けて歸平した右の『作法付き活手前』は當地方に於ける最初の流法で華道の眞髓を遺憾なく發揮した活け方であるから同流法の普及と共に當地方の華道界に一革新を齎らすであらうといふ尙ほ今回の上落を機とし七年前に學んだ縁組に依り小原流盛花の家元執阿部光山師

## 白土會の 温習納會

### 温習納會

平町喜多流謡曲白土會では来る九日午後四時より田町稽古舞臺に於いて平、好間湯本、四倉及び婦人組等が聯合し第三十五回月次温習納會を開催するが會費は夕食付一圓、番組左の如く番外として教師白土喜伯氏の仕舞玉葛附言等がある

竹生鳥 巴 湯谷 羽衣 井筒 小袖會我 鬼界ヶ

## 警女生の体重増加

### 体育獎勵の良果

警女では過般來全校生徒七百六十二名の体重測定を行つたがその結果甲三百九十九名、乙四十名、丙二百九十七名、丁三十三名で甲は全体の五割一分強を占め乙が五分二厘五毛丙が三割九分丁が僅か四分にて此好成绩は同校が体育を大いに獎勵して體軀の改善を圖つた結果と見られて居る

## 海軍召集

### 事務打合

平署管内各町村の海軍兵召集事務打合せ會は左記日割で開かれる

- (九日飯野役場) 飯野 平
- 鹿島 夏井 (十二日磐崎役場) 内郷 湯本 玉川
- 磐崎 (十三日平窪役場) 小川 神谷 赤井 平窪
- (十四日豊間役場) 小名濱 江名 高久 豊間 (十五日好間役場) 永戸 澤渡

## 平町物價

白米	一等	一キロ	一七五
	二等	一キロ	一七〇
	三等	一キロ	一六五
白麥	一	一〇〇	一〇〇
平青	一	一四〇	一四〇
味噌	一貫目	五〇〇	五〇〇
醤油	一升	四〇〇	四〇〇
清酒	一	一〇〇	一〇〇

鳥 鉢木 獨吟仕舞土蜘蛛

平町人事  
△久保町一 伊藤孝敬氏六女敬子 回 婚 姻  
△仲間町四八 佐藤正次郎 (三九) 内郷村字水之出三五鈴木シゲノ (二一九) 回 死 亡  
△堤ノ内一七 當時茨城縣松原町字高秋水松延弘 (四九)

**吸入用酸素** 純度 99%

度量 平衡 秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

寒暖計 体温計

**關内藥局**

電話四〇番

**外科 X 光線科**

性病科 外科

安齊外科醫院

電話四七五番

# 他地の清酒と

## 断然販賣戦開始

### 地酒の大宣傳を行つて

### 毎月數回廉賣デー開催

石城郡下三十餘の酒造業者は醸造酒が縣外移入品に押され氣味なので今後は地元製品宣傳の爲め毎月一、二回廉賣デーを開き一升以上の買上げ客には割引販賣して断然縣外品と競争を行ふべく意を決し来る九日午後一時より平稅務署樓上でその實行方法を協議する

## 暴れ込み

### 硝子戸破壊

赤井村常任居住萩田新之助(三)は去る一日午後八時半頃飲酒の上同村食肉商熊谷運四郎方に暴れ込みガラス三枚を破壊し本日平署に告訴された

## 笑ひの王者

### 西村樂天氏來平

平青年團資金造成に關くトキキ映畫と漫談の夕

平青年團では資金造成の一事業として帝都に於ける漫談界の創始者として笑ひの王者を以つて自他共に許す西村樂天氏を招き十四日午後六時から聚樂館に漫談の夕を催し爆笑洪笑の渦を巻きしめる事になつたが同夜は特に東京日々新聞社の好意に依り左記のトキキ映畫も上場する由、會費廿五錢

平町正月町一〇一野榮行商古川清一(一)及び和田芳藏(二)の兩名は去月二十八日頃より今月二日頃の間に十數回に亘り彌宣町警察發覺所貯炭場より石炭を窃取した事發覺目下平署に檢舉取調中

## 石炭窃取

### 逐に發覺す

内郷村大字高坂宇高橋料理人吉田忠雄(一)は去月二十六日同村大字宮字瀧山崎ヨネ方を訪れ弟が肺炎で死んだが葬式を出す事が出来なからと空涙を流しながら嘘萬八を述べたため外同様手段で十六名より金錢を詐取した事發覺本日平署に檢舉された

## 泣き落とし

## 葬式詐欺

裁判所たより  
△内郷村大字綴自動車運轉手小野伸藏(一)が去る九月四日午後八時四十分頃貨切自動車に乗客を乗せ平より好間に向つて疾走中久保町磐越線踏切に於いて列車に衝突乗客に重傷を負せた業

## 金龍軒の豪遊客

### 郡内荒しの盜賊

### 被害金額三百餘圓に及ぶ

昨四日午後四時頃湯本町カフエー金龍軒事川崎キヌ方で豪遊して居る男を平署員が怪み本署に引致して取調ると秋田縣北秋田郡大葛村字寺之澤生れ盜盜前科二犯川村義男(一)にて本年六月

## 戦死者の遺産を

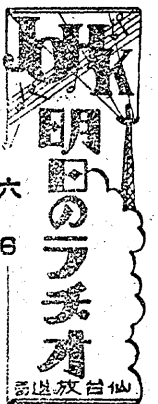
### 巡る財産争ひが和解

昨年二月四日滿洲ハルビン附近に於いて名譽の戦死者を遂げた飯野村大字上荒川宇五郎内六七陸軍歩兵伍長山崎一好君の選定家督相続人實弟三得君が門傳辯護士を代理人とし叔父に當る同村の山崎富四郎氏を相手取り

## 徒歩で渡滿

### 途中は防火宣傳

けふ弘前の快男子來平  
弘前市新橋町四〇吉田鶴藏氏(一)は徒歩に依る渡滿を企て去る十月二十七日郷里を出發途中防火宣傳を行ひながら本日平町に到着早速平署を試れ署長に面會署員一同より激勵の言葉を浴せ



今晩も明日も北西の風天氣良し

今晩の部  
後六、〇〇(子供の時間)ピアノ 件野澄子 宮原淳子  
後六、二五基礎佛語講座(一三三)目黒三郎  
後七、三〇講演「忠勇顯彰」と「日本精神」徳富蘇峰  
後八、〇〇俚謠 伊藤勝子外

後六、〇〇子供の時間  
お話「犬の飼方ならし方」小野嘉明  
後六、二五ことばの講座日本語の味シーエックバビ  
後七、三〇講演子爵金子堅太郎  
後八、〇〇浪花節「ならず者と母」天光軒満月  
後八、四〇俚謠  
後八、五五義太夫二元放送假名手本忠臣藏二段目桃井の館の段大阪浄るり竹本角太夫 東京三味線豊澤廣助

△外面談(小名濱町某) 圓  
△大工 日給七十錢 尋卒(平町某)  
△旅館番頭 三十前後 尋卒 給料面談(湯本町某)  
△書販賣人 二十二以下 尋卒 賣上の三割給(平町某)  
△回職を求める方  
△料理人 二十四才 尋卒 給料面談(湯本町某)  
△事務員 二十三才 佑賢 給料面談(好間村某)  
△給仕 十七才 中三修 給料面談(好町某)  
△小使 四十八才 高三修 給料面談(平町某)

長唄  
花柳流  
御稽古を  
おす、め  
致します

平町 花柳舞踊流  
町田七二 研究所  
花柳徳三郎  
杵屋十茂代



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴演  
山本英春畫

第一百五回 徳川家に崇る村正

大言壯語の浪士

爺「サアお先が来ましたけどうぞ土下座をなすつて下さいませし」

武「成程左様か、それを聞いては貴様達が尊敬をするも道理だ、よし〜それでは乃公も下に居てやる」

と彼の武士突然刀を床几の上に置いて草鞋を穿いた儘で腰をかがめて居る『エー下に居ろ〜下に居ろ』

僅かのお供でございませうが岡崎の人々と先方より送りの者一同がお駕籠の左右を取巻き、打物長柄其他各々武器を携へましてここを御通行に相成り、彼の茶屋の前へ来ると彼の浪人態の者が控へて居る、七月の暑

燃ゆる許りの時分であるから、元康公お駕籠の垂を上げさせ、吹き来る風を受けて四邊を陸めてお在になる是ぞ後に東照宮と稱し奉る日本無双の名稱でございませう、彼の武士は何に感じたか叮嚀に頭を下して居ります其内にお駕籠に通じ越して

了ふ、茶店の爺が爺「サア〜旦那様宣しうございませう誠に御迷惑でした是からどうぞ緩くり御木息なすつて下さいませし」

武「んやさうしても居られない然しまだ一向若いお方だむ」

爺「左様でございませう、お十五お十六でございませう後には立派な御大將様になられやうと最良かは知りませぬが岡崎では寄ると集まる



と噂をいたして居ります

が……」

武「成程、爺、凡そ大名と云はれるも、國司と云れるも又私共のやうに平々凡々の者でも、その人に異りはないが、貴人と生れ出てる者は己の以て生れた徳だ

黙れども此の貴人と云ふものは、思ひの外天下の事を成すと云ふは少いものだ爺も人の話に聞いて居やうが大名の子がズン〜と若様から成長をして、其領地を受継ぐなど、云ふ事は餘り澤山ないな、名將の子に愚將が出来ると云ふ誓くの通りであるから、人間は下から仕上げて行つたものでなければ可かん、乃公は悪口を利くやうだが、今駕籠の中に居た若君を見上げた所腹からの大名ではあるが是は又格別物だ、乃公は相學などは知らんが、まだ御若年ではあるけれども、相貌

が来て滅らす口を利いて行つたといふ事を貴様は覺えて、逢ふ人毎に此の語をしる」

爺「へえ左様でございませうか、夫では貴方のお目で今の若様が追々偉いお方になるといふ事が分つて居りますか」

武「中らすと雖も遠からず先づ末が楽しみだけれども爺今云ふ通りあの人は生れなからにして大名の子となり多くの人に侍かれてゐるが、一銭半銭の施しをした事もない、何一つ恵んだ事せるといふ位の性來福を持つてゐる人だ是で思ひ通りに自分の働きて我々國を富ますことが出来て行けば鬼に鐵棒處で乃公は天笠浪人西となく東となく奔走して今日何を的といふ事もなく世の中を送つてゐる譯の分らん身體だけれども見ろ乃公の行末といふものは今に岡崎の若君が立派なお方にならうと云ふ時分には某は夫れに上越す身分になり後に至つて彼の若君が三公の位に昇らうといふ時があれは乃公は夫に又一層輪をかけて太政大臣にもなつて見せやうと思ふで今乃公に土下座をさせた其返報には必ずアノ若君に乃公の沓を取らせてやる、爺貴様も永く生きて居れば見せてやりたさいがモウ貴様いゝ年だからさうもゆくまい」

爺「へい」

武「よく又立寄つた人々に此話をして置け、分つたか

爺「へえエエ、イヤ岡崎の若様の事を仰しやつた時には感心をして居りましたが若様が御出世を遊ばせば貴所は夫れに上越した出世で何ですとい、太政大臣に貴所がなるとアハ、イヤ先づ結構な事でございます私もどうか夫まで生きて居りまして貴所の御出世を蔭ながら喜びませう」

美味で！  
評判の……  
イワキ  
サロン  
電 352

木村外 科 院 醫  
平町五丁目橋際  
電話九〇三番

豆炭のお奨め  
壹袋 正味五貫目入 金八十錢  
木炭が高くなり、新らしき燃料として豆炭をお奨め致します、豆炭の經濟なことは木炭の數倍です。  
是非一度御試用下さい。

一丁目 菅本 武雄商店 電五九六番  
二丁目 北海屋海産物店 電三八八番  
三丁目 磐崎屋 酒店 電六六三番  
白銀町 水野 氷店 電二九九番  
平驛前 阿部石炭商店 電三七番

中村齒科醫院  
平町鍛冶町七

お醬油は ヤマフル  
醬油味 噌  
たひら 正宗  
鯉節 食料品  
鹽 屋  
合名會社  
福島縣平町電話營業部三醸造工場  
明治生命磐城代理店 山崎 與三郎